

# 北河内会報 自然愛好会

2021年4月20日 No.111

北河内自然愛好会発行

事務局：大東市野崎 3-7-7

西畑敬一 方

ホームページアドレス：[http://www.cc-net.or.jp/~ja3\\_aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm](http://www.cc-net.or.jp/~ja3_aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm)

**2021 年度北河内自然愛好会総会要項（決定事項）** \_\_\_\_\_ 部分是要項（案）からの修正（太田・記）

日時：2021年1月30日（土）13時30分受付開始、年会費の受付。

場所：大東市立野崎まいり公園多目的ホール

総会議事（14：00～）（（ ）内は担当者・敬称略）

1. 開会宣言（司会：太田 理）
2. 西畑敬一会長挨拶
3. 2020 年度行事報告（田中光彦）
4. 2020 年度会計報告（稲原良三）
5. 2021 年度行事計画（田中光彦）
6. 2021 年度予算（稲原良三）
7. 『北河内植物目録改訂版』発行について～当会創立 30 周年記念事業（木村雅行）

別紙「『北河内植物目録改訂版』刊行について」参照

8.北河内自然愛好会観察会 400 回「例会記録アーカイブズ」作成について（太田 理）田中光彦さんが既に会報 41 号～77 号（第 171 回～第 315 回）の入力済み。残りを鋭意作成中で、今年度中に仕上げたいと思っています。ただ、完成すれば数十ページになるようで、紙媒体にするか CD にするかなど、運営委員会に諮り決定したいと考えています。

9. 西畑会長より平 研氏を終身会員に推挙する件の提案～承認されました。

北河内自然愛好会会則（終身会員）

第 14 条 本会の振興にあたり、永年努力された会員を終身会員（名誉会員）とすることができる。

- 1) 終身会員は会費を免除される。
- 2) 終身会員は会長が推薦し総会において決める

10.会長・会計・運営委員選出・紹介（西畑会長）会長：西畑敬一、会計：稲原良三

運営委員：栗田泰子、稲原ヒサエ、太田理（会報編集）、北川ちえこ、木村雅行、鈴木永子、高見君江、田中光彦、長島照文、中町荅子、中山千代美、西村寿雄～以上、選出、承認されました。

11.その他～総会当日、磯田一雄様が入会されました。その旨西畑会長より紹介。磯田様が自己紹介。奥様の恵様が当会会員でしたが、昨年 12 月に亡くなられました。自然を愛し、真摯に観察を続けてこられたご様子を話され、その思いを継いで入会されたとのことでした。奥様の観察記録などをいただきましたので、次号会報に掲載することの承諾もいただきました。

12.会員発表（14：50～16：00）

1. 四條畷市・田原の里山の自然紹介（西畑敬一・太田理）
2. 田中さんのクイズ（田中光彦）

13.閉会宣言（太田 理）（16：00）

**2020 年度行事報告（（ ）内は担当者・敬称略）**

1 月 1/25（土）2020 年度総会 14：00～16：30 交野市立保健福祉センター（交野ゆうゆうセンター）  
2 月 411 回例会 2/29（土）「京都植物園」（稲原良三）  
3 月 412 回例会 3/28（土）「野草を食べる一山田池公園」（稲原良三・西畑敬一）＜中止＞  
4 月 413 回例会 4/12（日）自主参加「下田原の里山・里山一斉調査」四條畷市（太田 理）＜中止＞  
414 回例会 4/26（日）「枚方市尊延寺から甘南備山の植物」（木村雅行）＜中止＞  
5 月 415 回例会 5/16（土）「城北ワンドの植物」（田中光彦）＜中止＞  
6 月 416 回例会 6/13（土）「神峯山寺の植物」（栗田泰子）  
7 月 417 回

例会 7/9 (木) 「キノコ観察会」 (田中光彦) 講師・下野義人先生 8月休会 9月 418回例会 9/12 (土) 「室池園地ナンバンギセル」 (田中光彦・太田理) 10月 419回例会 10/3 (土) 「能勢・豊能町の植物」 (栗田泰子) カリガネソウ 11月中止 11月運営委員会 11/7 (土) 13:30~

### 2021年度行事計画 ( ( ) 内は担当者・敬称略)

1月 2021年度総会 1/30 (土) 14:00~15:30 大東市立野崎まいり公園多目的ホール  
2月 ~~420回例会~~ 中止  
3月 420回例会 3/27 (土) 「野草を食べる—山田池公園」 (西畑敬一・稲原良三)  
4月 421回例会 4/11 (日) 自主参加「下田原の里山・里山一斉調査」四條畷市 (太田 理)  
422回例会 4/29 (木・祝) 「淀川・三矢ワンドの植物」 (木村雅行)  
5月 ~~423回例会 5/5 (水祝)~~ 「本津川河川敷の植物」 (田中光彦) (一旦予定するも取り止め)  
424回例会 5/29 「淀川・城北ワンドの植物 (ヤセウツボの群落等)」 (田中光彦) (中止予定)  
7月 425回例会 7/8 (木) 「穂谷のキノコ観察」 (田中光彦・下野義人先生)  
426回例会 7/24 (土) 「私市・大阪市立大学附属植物園での観察」交野市  
8月 休会  
9月 427回例会 9/ 「星田園地の植物 (アイナエ等)」 (田中光彦・栗田泰子)  
10月 428例会 10/16 (土) 「京都府・西山天王山・小倉神社付近の植物 (ヌマダイコン等)」 (栗田泰子)  
11月 429回例会 11/ 「淀川(穂谷川合流部)の川原の石・枚方市牧野」 (西村寿雄)

◇上記のように計画していますが、例会内容は変更することもあり、会報発行時の「例会案内」でお確かめ下さい。

◎参加者：栗田泰子、磯田一雄、稲原良三、太田理、岡田三千代、影千恵子、川崎節子、北川ちえこ、木村雅行、鈴木永子、高見君江、田中光彦、長島照文、中野潤子、中町茶子、西畑敬一、波多野恵子、山田良之 (以上 18名)

### 第 420 回例会「野草を食べる—山田池公園」枚方市 2021年3月27日晴れ 北川ちえこ

コロナというどうしようもない自然災で、昨年は中止になり、今年はそれなりの制約をつけ決行されました。稲原さんは前日の下見で場所の確保など色々準備をしていただいていたのですが、当日になって園内のルールが変更になり、洗い場、調理場、食事場など各 4人以上にならないように八方に散らばって会場を確保していただきました。担当者はそれだけでなく色々尽力していただいているのにコロナ禍では更に大きな気遣いをしていただき、他の役員の方も含め開催していただいたことに感謝します。

この例会は早春の植物を観察し、かつ食するといういい事だらけの会ですが、大阪にもまだ田畑が残るところがありその変化も知りたいと思って見続けています。山田池公園は整備が進み変わりましたが、野草を摘む用水路道はこの例会が始まってからでは今のところ大きな変化がないのは田畑を守っている方達が健在だからと思っています。大阪市内では淀川や大和川以外に見ることができないカンサイタンポポがたくさんあったことが嬉しいと思いました。

集合駅から、造成地に墓地が見えましたが、過去に沢山ツクシを摘んだと田中さんや西畑さんが言っておられました。その横を通る自動車道は、尊延寺へと続く道で、この道路工事に伴い希少な植物がなくなるかもしれないということで当時その近辺を案内していただいた事を思い出し、その後の様子が気になりました。

さて、今年の桜開花が早く例年はカワヅザクラを見て春の訪れを感じましたがその桜ももう実がついていました。ウグイスも上手に鳴いていました。皆さんの手際が良かったのか、いつもより早

く調理ができました。

◎メニュー

揚げ物：苦いと思ったカンサイタンポポやスイカズラは新鮮だったのかあまり苦味を感じなかった、アカメガシワ、カンサイタンポポ花、クコ、スイカズラ、スイバ、フキノトウ、春の寄せ揚げ（カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カラシナ）、ヨモギ団子

和え物：調味料が効いて味がわかりにくかったが、コリアンダー以外はくせがなかった

ゴマ醤油：クレソン、コリアンダー（パクチー）、セリ、ナズナ、ノヂシャ

酢味噌：ノビル（全草）ヤブカンゾウ

薄塩：レンゲ花（見栄えが良かった）

薄醤油：オニタビラコ

マヨネーズ：カラシナ

その他：ヨモギ団子（きなこ、みたらしのタレ）

◎美味しかったランキング

1. ヨモギ団子 3 種（特に揚げ団子に人気）、2. ノビル（全早）、3. スイバ、アカメガシワ、
4. 寄せ揚げ、セリ、コリアンダー、ヤブカンゾウ、コオニタビラコ

◎見かけた動植物（見た順）

<藤坂駅～水路手前>

カラスノエンドウ（花）、スズメノエンドウ（花）、ヒメオドリコソウ（花）、ネズミムギ（花）、ヤブジラミ、ノゲシ（花）、スギナ、コハコベ（花）、ヒメヒレアザミ、ススキ立枯れ、セイヨウタンポポ（花）、ヨモギ、ホトケノザ（花）、ヘラオオバコ、クコ、ノボロギク（花）、オオバコ（花）、ハシボソガラス、センニンソウ、ミチタネツケバナ、スズメ、モズ(声)、イソヒヨドリ、ソメイヨシノ（花）、オニタビラコ（花）

<水路～山田池公園（文章に出た以外）>

コセンダングサ（果実）、イモカタバミ（花）、ヤエムグラ（花）、ホトケノザ（花）、ルリムスカリ（花）、オオカワヂシャ、セイタカアワダチソウ、イヌホオズキ、ヒロハウシノケグサ（花蕾）、タチイヌノフグリ（花）、キュウリグサ（花）、ムラサキカタバミ（花）、モンシロチョウ、ギシギシ、ノミノフスマ、イヌガラシ（花）、トキワハゼ（花）、カズノコグサ（花）、ヘビイチコ、スズメノカタビラ（花）、ヒメジョオン（花）、コマツヨイグサ（花）、イヌムギ（花）、マメグンバイナズナ（花）、スイセン（花）、オランダミミナグサ（花）、ナナホシテントウ、シロツメクサ、ムラサキサギゴケ（花）、シジミ、オヒシバ立枯れ、エノコログサ立枯れ、タネツケバナ（花）、ユスリカの仲間、セイヨウタンポポ（花）、アレチギシギシ、オオイヌノフグリ（花）、ウラジロチチコグサ、ツルニチニチソウ（花）、アメリカフウロ、オカタイトゴメ、セイタカヨシ、シキミ（花）、カミツレ（花）、ヘラオオバコ、ワラビ、ハナニラ（花）、ユキヤナギ（花）、コブシ（花）、シロツメクサ（花）、コメツブツメクサ（花）、エゾノギシギシ、シジュウカラ（声）、モリチャバネゴキブリ

◎参加者：粟田泰子、稲原良三、稲原ヒサエ、影 千恵子、北川ちえこ、桑原秀晃、鈴木永子、田中光彦、長島照文、中町荅子、西畑敬一、波多野恵子、発 ひとみ、細川満佐秩、宇気京子、大重文恵、梶 記代美、吹田章恵、吹田弘一、吹田琴子、佃 静枝  
（以上 21 名）

※次の文は磯田一雄様からのお手紙と、本会会員であった奥様の恵様の観察記録を寄稿（原文のまま）いただいたものです。なお、図の一部が見えにくくなっているところがありますがご容赦ください。図中の文はゴシック体で併記されていますので、参照してください。（太田理・記）

## 北河内自然愛好会 御中

前略。このほど会報第 110 号をいただきました。

実は会員・磯田<sup>あや</sup>恵は、2018 年秋、私と共に東京から四條畷に転居し、2019 年 1 月 26 日に貴会に入会いたしました。その頃から体調がすぐれず悩んでおりました。会報の記録によれば、観察会には第 405 回例会（淀川河川敷の植物・19 年 5 月 6 日）と第 406 回例会（交野・旗振山ツチアケビ・19 年 6 月 22 日）の二回参加しただけのようです。しかもこの 406 回の時は、行程の最後で歩けなくなり、ご迷惑をおかけしております。それ以後は、ごく近隣のほかは外出もままならなくなり、19 年 11 月には大阪市立総合医療センターに入院いたしました。以後入退院を繰り返して、20 年 12 月 23 日に召天しました。その間会費は私が代行して納入しております。

恵は東京在住の頃から自然観察を愛しており、あちこちの自然観察会に参加し、東京上野の国立科学博物館の教育ボランティアを 20 年間務めました。また山好きの私と一緒に、よく知られた高尾山を始め、関東や中部のあちこちの山に出かけて、植物観察を重ねておりました。こちらへ来ましてからも、四條畷神社の裏手にナナミノキを見つけて、継続観察をしようとしておりました。それだけに、この地域の植生を十分に楽しむことも出来ずに逝ったことは、さぞ心残りだったろうと思います。

私は歩き回るほかに能のない人間ですが、そんな彼女の心だけでも継ぎたいと思ひまして、貴会に入会させていただきたく存じます。1 月 30 日の総会には参加させていただきたく、よろしく願いいたします。会費はその時納入しますが、もし行けなかった時には、郵便振替でお送りいたします。

2021 年 1 月 25 日 磯田一雄

二伸：別紙の文は、北河内自然愛好会関係の資料の中に残された鉛筆書きのメモです。19 年 4 月頃に、恵が東京の自然観察会の仲間にも宛てた手紙の下書きではないかと思われまふ。この木は飯盛山の登山口にありまふので、私はいつも目にしております。ご参考までに同封しまふ。

なお恵の享年は 88 歳ですが、私はこの四月で 89 歳になります。

## 磯田恵の手紙下書き

お久しぶりです。

今丁度桜は満開、大阪は八王子より暖い所と思つて来たのに、冬は山から吹き降す風が冷たく、強い風の時寒さに弱い体には少々こたえました。四月の声と共に回りも明るくなり、外に出て活動しやすくなりました。昨秋引越してきた当時は何となく回りの自然が関東と違ふとしか判りませんでしたが、暇に任せて散策して見ると、周囲の山の南西面には、近隣住民のための広々とした自然を生かした公園があちこちに作られ、春は桜、秋は紅葉を楽しめるよう植林されています。まだ若木が主なので、せいぜい十五年位前に計画実行された感じだ。一応観光地と呼んでいますが、関東で体験した人、人の行列風景とは異り、2～3 時間行程の山道を歩いていても、地元の単独行の人とか、4、5 人グループの人に 6 組位逢う程度でのどかな歩きができます。

家の近くに関東では目にすることのできなかつた、ナナミノキ（モチノキ科、東海～九州の温暖帯

に自生) をみつけ、目下継続観察中。雌雄異株で6月淡紫色で径5mm位の4数性(?)の花を、今年伸びた葉腋に集散花序をつくり、秋にモチノキ属は赤い球形の果実をもつのにこれだけはやや細く曲がっているので斜めの木だとの珍説があるとか。

これからの季節の移り変りが楽しみです。

(明らかに誤りと思われる個所を除き原文のまま。?印の個所は文字不鮮明で意味が解りません)

## 北河内自然愛好会について磯田恵の記述(日記より)

\*明らかな誤記を除き原文のまま。( )の無印は原文。(K)は一雄の注記。

2019年1月26日 総会

北河内自然愛好会の総会をのぞいてみようとして JR 学研都市線河内磐船駅前の福祉総合センターへ行く。外は晴れたり曇ったりなのに駅を降り立ったら突然のすごい吹雪。会は色々勉強にもなったし、そうかんたんに他の会に行く事もむずかしいだろうと、会員の手つづきをして、5時前に駅に戻ったら人身事故で電車はストップ。6時には帰れると思ったのに.....7時過ぎにやっと我が家にたどりつく。

2月23日 土 401回例会 鶴見緑地植物観察...記録では「野鳥観察」

.....せめてダイエーの先の広一公園(深北緑地、K)に行ってみようとして11時に家を出る。

—例会についての言及なし。無視していたのではなく、地理不案内で、一人で行く自信がなかったらしい。(K)

3月16日 土 402回例会 野草を食べる—山田池公園

北河内自然愛好会の観察会に参加するのを楽しみにしていたが、天気不安定の日々に昨夜の中に参加は少々無理かなと思って少々あきらめてもいた。.....それで中止の決心も固る。でも集合の時間の9時近くになったら空もまた明るくなって果たして会としては中止したのか実行したのか? 楽しみにしていた日丈に気になった。

(3月19日記)16日の北河内自然愛好会の観察会はあの激しい雨でも中止せず行ったことがメールで分かる。集合時間の9時半には雨が上がっていたからやはり中止にはしなかった様だ。なか〜仲間に入っていくチャンスが得られず.....

4月14日 403回例会 自主参加 下田原の里山・里山一斉調査

今日の観察会は始めから雨が降るものとしてあきらめていた。.....本当に天気予報が当にならず、私の行動をそ害される。この調子ならほとんど降られずに観察会が出来ただろう。雨にまどわされて、3月4月と参加出来なかった。

4月20日 404回例会 春の宇治市植物公園

—観察会があったのに、場所に関心がなかったのか、この日は奈良の若草山に行っている。(K)

5月6日 405回例会 淀川河川敷の植物

やっと観察会に参加。.....1日中気温も良く、良い観察日和となる。但し男性はかなりの年と見受けられる人も居るが毎度の事で元気なのか。10時から淀川の土手を観察しながらダラ〜と2時間半。12時半にやっと昼休みとなる。弁当の時間は30分位。再び土手をダラ〜と歩く事2時間弱。初めて聞く草の名が多い。さすがに疲れた。一人になったらゆっくり何処かでコーヒー一杯で休みたかったと思ったがそんな所はなく、帰りの電車の中で残りのお茶をガブガブのんでしまったらやっと落ちつく。

6月22日 406回例会 旗振山・土アケビの花

今回は何とか天気恵まれ無事(?)参加。しかし健脚揃いのこの会の一日はこの年の私には少々きつい。昼の時間の30分程以外は兎に角4時間程水補給は出来るが一度にたくさん食べられない私にはこの山歩きはきつく、最後(河内)磐船の駅にあと少しの所で足と腰の調節が出来なくなってフラ～～になる。駅まで稲原さんの車で送ってもらって何とか家に帰り着く。

(翌日6月23日記)昨日の観察会ササユリ、ツチアケビ等目的のものは見られて良かったが、今後この会に参加可能か考えてしまう。女性群も60台、70台が主で皆元気で、昨日のような機会に声をかけ合って色々な所へ出かけている様だ。とても仲間に入れてもらえる体力もなし。

7月28日 407回例会 金剛山麓の植物

どうやらつゆは明けたらしく、天気も安定してきた感じ。今日は観察会の日だったけど、体調が良いとは云えないので、迷わくをかけた参加する事も出来ず、一日中家の中であれこれ考えていた。これまでは一回り若い人達の中に入れてもらって色々こなして来たが、最近の生活を振り返って、年相応の人達と相応の生活をしなければいけないのかもと思知らされる。無理にしてきたのではなく、自然と年下の人達の中に入れてもらって色々楽しんできたが、こちらにきてからはあっちこっちシャットアウトされる感じ。今の所卓球は何とかなっているが、観察会は無理を感じる。

(前日7月27日記)明日の観察会に体に自信が持たなくて参加出来ないのが残念だ。

8月31日 408回例会 むろいけ園地・ナンバンギセル観察

今日は又観察会のチャンスを逃す。どうせ雨だろうと朝起きたら外は雨は何処へやら良い天気。むろ池～飯盛山への観察の予定が入っていたので、せめてむろ池丈でも行って、ナンバンギセルが見られたらいいなど、多少の希望も持っていたのに、今日まで歩いてみる事もモロ～～の条件で出来ず、……外に出る計画はこの1か月遂に出来なかった。……日中まあ～～の天気だったが、観察会の終る3時頃から急に空は雲におおわれ雨が降り出す。

(前日8月30日記)明日は観察会が入っていて飯盛山なのに、天気と体調の両方から参加は無理だ。故に精神的に又シコリが残る。

—この頃になると天気のことよりも、体調不良で外出できなかったことの方が大きかったようだ。

(K)

10月6日 409回例会 飯盛山のアケボノシュンランを見に行こう

体重は日に日に少なくなり30kgそこ～～に。

—体調はますます悪化して、遂に観察会は全く諦めざるを得なくなったことを示している。以後日記に観察会についての言及は全くなくなる。(K)

#### 四條畷転居後の磯田恵の自然観察記録(日記・メモ帳・2冊の観察記録ノートによる)

—以下の記録のうち、明朝体の文は恵の日記から、ゴシック体の文は「メモ帳」と「観察記(2018.11月～)」及び「ナナミノキ(モチノキ科)」という2冊のノートから採ったものである(K)。

2018年11月9日

2日前枚岡展望台の帰り道に折ってきた植物の名前を同定するのに2日もかかり、本日何とかある丈の本を引っ張り出していいいに調べてみたらヤマコウバイと判明。わかってみればなんだろうが、自然界であまりに黄色に変化、すでに枯れているので枝を折っても匂わず、手間取る。

11月23日

気になっていた(飯盛)山の常緑樹を調べに行く。……御机神社から四條畷神社の分岐点まで500

m程だけど、兎に角目についた常緑樹の枝を採って……床に広げて同定をする。全部で 9 種取ってきていた。……4 時間ほどかかったが、よくぞ全部分かったものだ。これまで名前は聞いていたが始めて実物を手にする。有意義な一日だった。

以下持参したメモ帳による

カゴノキ    ツクバネカシ    サンゴジュ    クスノキ    アラカシ    ヤマモミジ  
シロダモ    ナナミノキ    アオキ    プラスギ    タケ

11月24日

昨日採ってきた植物の整理もほぼついたからメールにして送らねば（どこへ？ K）

11月27日

枚岡公園から枚岡展望台、神津岳、ふれあい広場休憩所をめぐって、瓢箪山バス停に降りる。……下りの道でめずらしい細い葉の植物をみつけて……ハナマキ（フトモモ科）と分かり、図鑑にはほとんどのっていない。庭木、公園樹とあるので、観光地に植えられたものと思われる。

12月5日

気になる飯盛山の木を確認したくて……行ってくる。分かった事は、西側は常緑樹にコナラ、クヌギの落葉樹で、茶と緑の縞模様が出来る事、東面に廻って見たら、スギも多いが落葉樹も多く明るい感じだった。……持ち帰った木の同定がすんなりといかなかった。夜までかかって不完全で終わる。

12月22日

飯盛山肌に最近茶色が目立ち 10月に思ったより落葉樹が多いようだ。

《観察記録（2018年11月～）》（以下太字）

——全部で 10 種類の木本の押し葉と記述があるが、ナナミノキのみ記す

2019年1月4日

常緑高木 若枝は無毛でやや陵がある 葉柄は赤色 標本にする  
と暗褐色になる

（※疑問：初めから枯れていたのでは？青いのを折り取ったのか？K）

花は6月 雌雄異株 淡紫色で径5mm 4数性（花卉4）

今年伸びた枝の葉柄に集散花序を作る

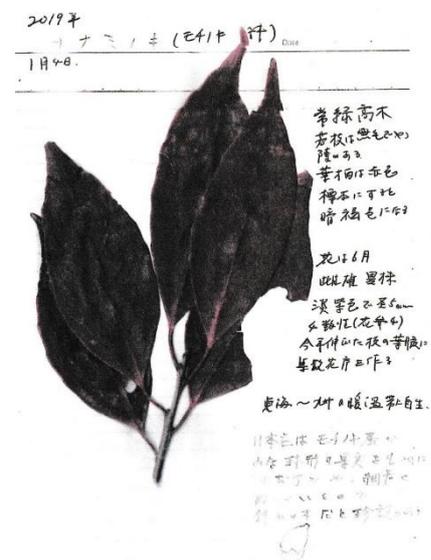
東海～九州の暖温帯に自生

日本名はモチノキ属がみな球形の果実をもつのに、これだけがやや細長く曲がっている

斜めの木だと珍説がある

1月30日

飯盛山へ……始め入口でナナミノキを改めて眺める。茎 25cm の太さもある大木の枝が出てきている形だった。これから一年何が分かるか。枝先に一つ赤い実がついていたので取ってきて切ってみたら小なやわらかい褐色の実が二つ入っていた。



1月30日

枝の先端に赤い実（タテ1cm、ヨコ1cm）

腋芽でなく頂芽の伸びそこない 各腋芽は小さくてほとんどわからない

厚み7mm

表面薄い膜のようなものでおおわれているが、はがせないでタテに切ってみる

中（中央）には二つの穴があり褐色の種（長さ3mmほど）が夫々一つずつ入っている

取り出そうとしたらやわらかくつぶれてしまう

（※疑問：種子ではなく芽だったのでは？実＝種としたので、その後観察しなくなったのでは？ K）

久しぶりの分解 本日これ以上無理

1月31日

昨日の飯盛行きで自然に対する見方、接し方も、更に一段具体的にイメージする事も出来た。

2月6日

インターネットから

冬芽の再確認

幹は直立しよく分枝して繁る

樹皮は灰褐色でなめらか

2月12日

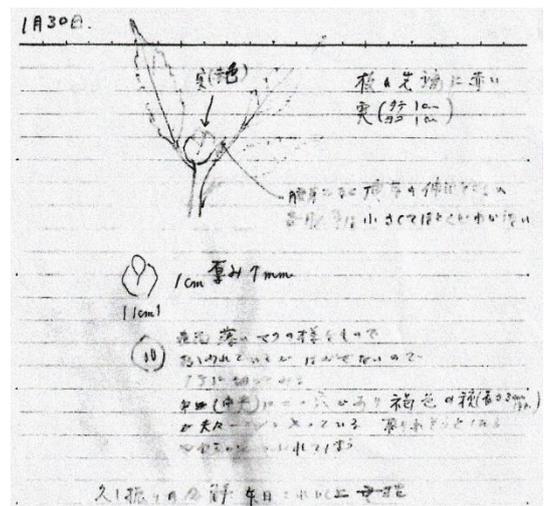
ナナミノキの所も太陽が当たっているので暖かく、どの枝を今後の観察に使うか、あれこれ30分程品定めをする。そうしている中に雲が出て太陽をかくしてしまう。気温は7℃程なのでたちまち寒くなり手袋をしている手の指が冷たく、とても細かい事は出来ない。あきらめて札を付けて引き上げて来る。近々暖かい日にもう一度ゆっくり行かなくては駄目だ。

2月15日

午前中に色々資料を送ってもらった北河内自然愛好会へメールでお礼を出し、メール加入の手続きも済ませる。これでこれから不明の事は簡単に問い合わせる事が出来る。

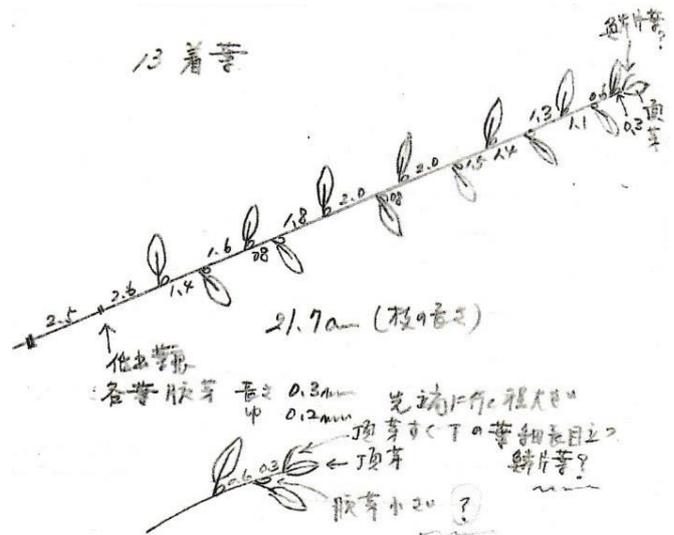
2月18日

11時に家を出てナナミノキの観察記録を取りに行く。最初だから少しいねいに見ておこうと、メジャーで測定してメモしようとする、もう測った長さが混乱してメモがとれないまどろっこしさ。1時間も時間を要してしまう。



《ナナミノキ（モチノキ科）》観察ノートの記録 （以下太字）

2月18日 観察枝決定  
 13着葉  
 21.7 cm (枝の長さ)

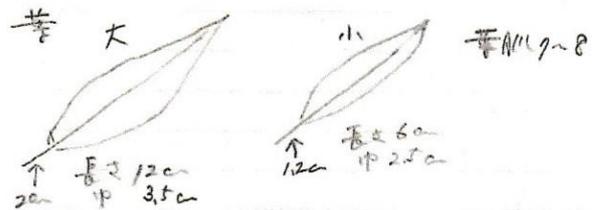


各葉腋芽 長さ 0.3 mm 巾 0.3 mm

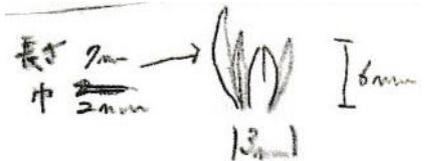
葉はただの互生でなく輪生状に茎に着いている

葉は互生の互生を多く輪生状に茎に着いている

2月26日  
 飯盛山に行きながらちょっと様子見をして行く何となく頂芽、腋芽がふくらみ始めたかなと思われるが、特に新しい変化はまだ見られない



3月2日  
 暖かい小春日和となる。頂芽の芽鱗が2枚はなれて立ち上がっている。  
 すぐ下の鱗片葉も気持ち長く伸びている。  
 昨秋の実の残り色は赤色だけど、特にナナメになっている様に見えるなく丸っこい



3月9日 暖かい小春日和  
 3月2日とほとんど変化なし  
 頂芽3枚目が開いている



3月15日 午後  
 木によっては急に頂芽、腋芽の伸びが目立つのに、このナナミノキの芽の変化(長さも含めて)が激しくなく、ほとんど変化見られない。

頂芽 長さ 8 mm 芽鱗 4枚開く 上から二つ目の腋芽 10 mm (長さ)  
 各枝の頂芽の鱗片葉ほぼ3~4枚開いているが 頂芽以外の脇芽は長さの変化は多少見られるが、芽鱗の動きは見られない

目下回りのユキヤナギが満開できれいだ

3月27日  
 10日以上過ぎていのに特に変化目立たない

頂芽 長さ 9 mm  
 芽鱗 6枚?開く  
 上から二つ目の腋芽 10 mm (長さ)  
 上から5つの脇芽は芽鱗が開いているがその下はまだ変化なし

古い枝を見ても頂芽は15~20cm伸びているが、その間腋芽が伸びて枝となっているのはほとんどない

頂芽すぐ下の芽以外はほとんど枯れて落ちると云うことか？

4月5日

頂芽の下の腋芽まで開きはじめる

芽鱗を含め4~5枚そり返っている

8葉以下腋芽なし

腋芽（伸び始めている）長さ1.5~2.0cm

4月8日

今日は通りすがりにちょっと見た丈だが頂芽及び上から3個目位までかなり芽鱗が3~6枚そり返って開いていた

4月16日

頂芽のすぐ下の腋から9腋より芽が開きその先4腋は芽は伸びない

頂芽：芽鱗2、鱗片4そり返る

葉は希黄色、中はきれいなみどり色

頂芽の下5腋までは鱗片がそり返ってよく開いている

上から腋9、11、12、13は腋芽なし

第一腋芽は第一鱗片より最初の芽葉の間の茎が2cmも伸びている

4月23日

上から1~8、10の腋芽がグーンと伸びる

枝の長さを頂芽のすぐ下12cm

低出葉1 成葉8開く

低出葉8枚の新葉転開

5月3日

午前中に観察記録を取りに行っていたが、じーとしている丈なのに何処から下りて来るのかあつという間に体中毛虫だらけ、とてもゆっくり記録を取ってられず退散。

5月3日

新しく伸びた枝の葉腋から花芽が伸び出す

長さ5.5cm (8cm=5月11日)

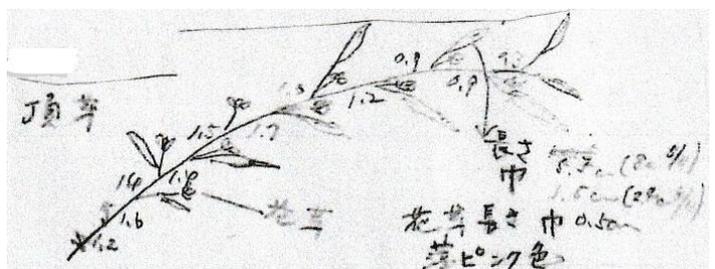
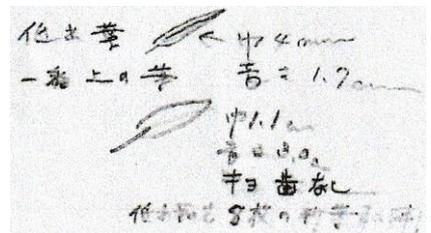
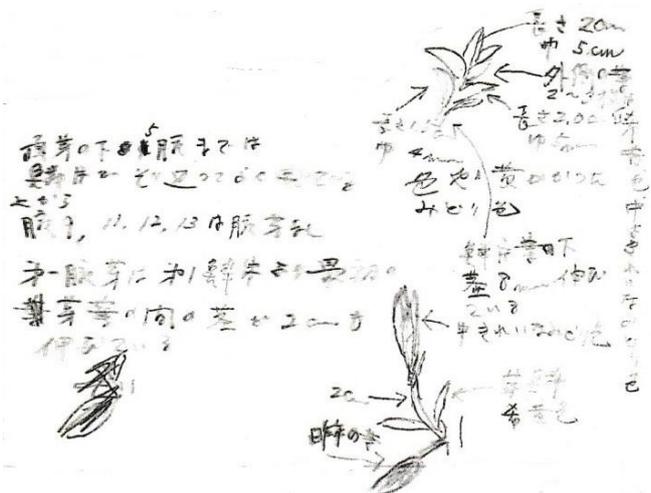
巾1.5cm (2.4cm=5月11日)

第一側枝長さ11cm

・全身あつという間にケムシだらけになり

ゆっくり調査してられない

・花芽が出来たのを見とどけたことが見つけものか



5月11日

昼近く観察基地に行く。毛虫はまだ所々に見られたが襲撃してくる程でもなく無事。

5月11日

花芽のうすピンクもグリーンに変わる  
まだ開かないので花の形を確認することができない

枝の長さ 13.5 cm (頂芽)

すぐ下の枝の長さ 20 cm ? (6月1日)

頂芽の葉の長さ 6.2 cm 巾 1.5 cm

5月15日

山登りのついでにのぞいてみたが頂芽の伸長の変化はあるかもしれないが、その他特に気になることはなかった。

6月1日

半月振りでナナミノキの観察記録を取りに行く。毛虫も少なくなったがまだあちこちに歩き回っている。

6月1日

各葉脈から 2~3 cmの花柄が伸びピンクの花がついている

長芽の伸長 14 cm

すぐ下の枝の長さ 10 cm

長芽一番上の葉の大きさ

6月4日

図書館では子供室に直行して毛虫の種を調べる。飯盛山の黒い毛虫はタテハ系と分かったが、何タテハまでは不明。

6月12日

ナナミノキの観察地に記録取りに行く。花はすっかり落ちてしまい、枝ののびも少なく、ほぼ落ちつくか? 観察木は雄木(花からして)らしいので、秋の実の楽しみがみられない。雌木を何処かで探さねば。

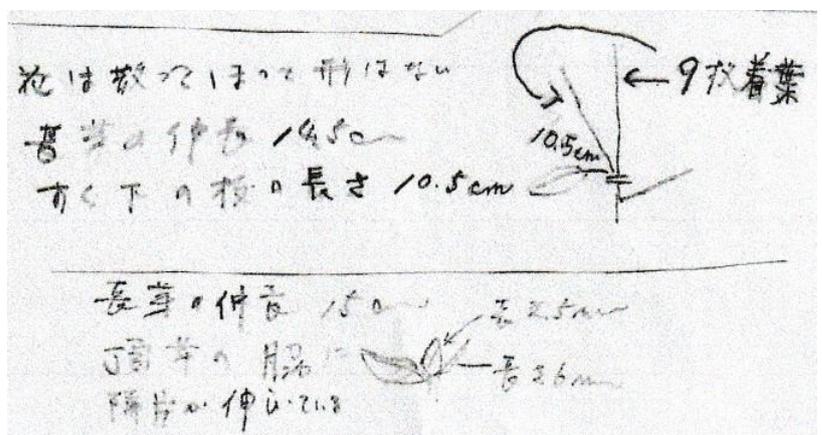
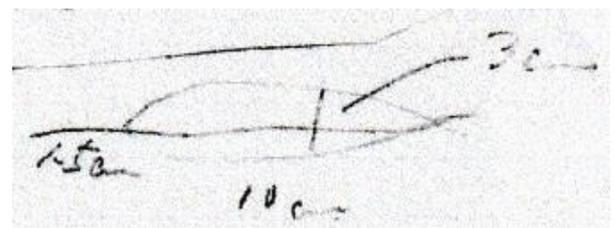
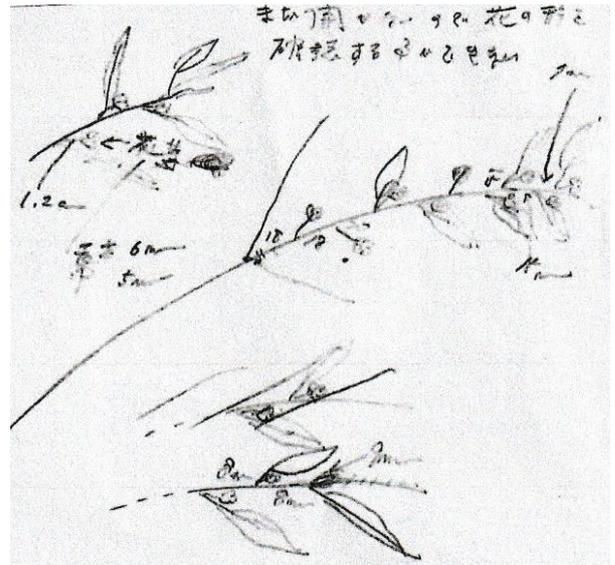
6月12日

花は散ってしまって形はない

長芽の伸長 14.5 cm

すぐ下の枝の長さ 10.5 cm

7月6日



つゆに入ってしばらくぶりである

長芽の伸長 15 cm

頂芽の脇に鱗片が伸びている

これは雄木なのでこれ以上の観察の楽しみは望めない 近くに雌木があると秋まで実の成長を楽しめるのに、残念ながら雌木はない

9月2日

昨夕見つけたケヤキの根元のキノコを取ってきて午後はその同定に明けくれる。……ハラタケ科のサラエノハラタケ（食べられないこともない）と分かる。図カン上で定めるのはむづかしい。

10月9日

久しぶりにナナミノキの観察に行き、ダイエイまで廻って、約2時間程ゆっくり歩いてくる。

10月9日 頂芽伸長 15 mm 9葉着葉 頂芽 5 mm

——これが多分最後の観察になったと思われる。観察ノートの記述はこれで終わり、以後日記にも自然観察の記述はない。

この日の日記には「マイペースならまだ動けるのだ」と書いているが、既に恵の体調はかなり悪くなっていた。半月ほど後、10月23日に始めて医者に行き検査を受け、その紹介で11月1日大阪市立総合医療センターへ。11月27日同センターに入院する。以後このセンターを中心とした闘病生活が始まる。翌年暮に亡くなるまで入退院を繰り返す、自然観察の記録のみならず、日記自体この2019年末で中断するに至り、復活することはなかった。（K）

## ナナミノキその後

2021年1月31日晴一時雲多し

1月30日の北河内自然愛好会総会で、恵のナナミノキの観察記録のうち、昨年1月30日に太い枝先に赤い実がついていたとあるが雄木でもそういうことがあるのか、スケッチの葉にギザギザがあるが、これはほかの木ではないか、との疑問を呈したところ、「実はつく」「ギザギザはある」と言われた。

今日の午後確かめに行ったところ、確かに葉には浅いギザギザがあった。また太い枝先に一つだけ径1 cmほどの実がついていた。但し色は赤くなく、薄緑だった点だけ恵の記録と異なる。やがて赤くなるのだろうか、しばらく様子を見てみたい。

§§昨日（2021.1.30）ナナミノキの観察記録の2019年1月30日に、太い枝の先に赤い実がついていたこと、描かれた葉にギザギザがあったことについて、私の疑問を出しましたが、それでいいのだというご意見を承りました。

本日午後またこのナナミノキを観察に行きまして、昨日は見つけない「実」があることと、葉にギザギザのあることを確認しました。ただ、恵の記録では「赤い実」になっておりますが、私が今日見たのは「径1 cmくらいの薄緑の実」でした。また一つしか見つかりませんでした。今後色が赤く変わっていくかどうかを確認したいと思います。さらに葉のギザギザは葉によって若干程度が異なるのではないかと思います。どうやら私なりの自然観察が始まったようです。（磯田一雄）

集合場所の飯盛霊園はいつもなら桜満開なのが、今年はほぼ散っていた。コロナ禍、去年はやむなく中止になったが、今年は感染防止対策を確認して実施。大阪自然環境保全協会との共催で、両方合わせて 14 名の参加で 10 時前に出発。田原台一丁目の住宅地にカンサイタンポポが見られた。そこから尾根道に入る。遠目に白い花、ウワミズザクラが見えた。そして早速にピンク色鮮やかなコバノミツバツツジが咲き誇っていた。個人的感想だが、私はこの山道が好きだ。ハイキング道と違い幅 1m 程の道がつづら折りにつながる。そしてあちこち春、夏、秋と季節ごとに木々や草花が色づく。

フンがあった。何やろうかと皆が眺める。イタチよりちょっと大きめなのでテンのフンとする。ミツバアケビ、マルバアオダモ、ミヤマガマズミなどの花。ムベの花も可愛く咲いていて秋になるとアケビのような実を付ける。ウグイスの鳴き声も聞こえる。クロモジが群がっているところがあり、何ともいえぬ芳香が漂っていた。

尾根道は高压線の下をずっと通る。所々にタカノツメがあり、その若葉のてんぷらが美味しいようだ。マツの木の下に毎年リスの食痕のエビフライが見つかるのだが、今年は見当たらない。アオモジの黄色い花が鮮やかに咲いていた。左折して薬尾寺池に向かう。

12 時薬尾寺池に着く。小休止。そこの土手にも毎年ノウサギのフンを見かけるのだが今年はない!? 紫色のスミレやツクシがあった。池から下に降りて道ばたの水溜りにカエルの卵があり、オタマジャクシがいた。以前その辺り 5 カ所のオタマジャクシを大阪市立自然史博物館の学芸員に同定してもらったところ全部ニホンアカガエルとのことだった。その水溜りには 10 年余り前から毎年環境省絶滅危惧のカスミサンショウウオが産卵に来ていたのだが、ここ 2、3 年卵が見つかっていない。今年もそうだった。枚方高校生物飼育部がこのカスミサンショウウオを飼育繁殖させて水溜りに戻す取り組みをしてくれているが。

道の脇にあちこち倒木が目立つ。ナラ枯れや台風などで木が倒れ、道沿いの柵もへし折れている。道幅がやや広いハイキング道に出て堂尾池に向かう。道ばたにシハイスミレ、タチツボスミレが咲いている。コクランを探しているところで誰かがフンを見つけた。縄張りフンなのか、黒く柔らかいものだった。これもテンか? 1 時に堂尾池に到着、お昼ご飯に。「お弁当を食べたらコーヒー飲んでや」と寝屋川市の方がコーヒーサービスをしてくださる。今年は高校生が参加してくれていて、池を眺めてメダカがいると教えてくれた。池にはブラックバスやウシガエルのオタマジャクシも見える。ムラサキサギゴケに混じって白花のサギゴケもあった。

昼食後まとめの会をして、今日見た鳥や動物、植物をみんなで確認し合った。このコースは今年で 27 年目。保全協会の人と共にコースリーダーを務めているが、高齢にもなり少々しんどくなってきている。高校生の若いパワーが繋いでくれると有り難いなと期待している。

◎野鳥：ウグイス、ハシブトガラス、コゲラ、シジュウカラ、スズメ、ハクセキレイ、ツバメ、ヒヨドリ、ホオジロ、メジロ、イソヒヨドリ、キンクロハジロ、カイツブリ

◎動物：イノシシ（ラッセル跡）、テン（フン）、モグラ

◎植物：（花・つぼみ・実のあるもののみ）

アオキ、アオモジ、アケビ、ミツバアケビ、ムベ、アセビ、ウワミズザクラ、ヤマザクラ、コバノガマズミ、ミヤマガマズミ、コバノミツバツツジ、モチツツジ、ヤマツツジ、サルトリイバラ、タカノツメ、ツクバネウツギ、ナガバモミジイチゴ、ニガイチゴ、クサイチゴ、ニワトコ、マルバアオダモ、ヤブツバキ、リョウブ、ヤナギの一種、ツクシ、ミヤコアオイ、シャガ、ショウジョウバカマ、チゴユリ、

シュンラン、コメツブツメクサ、シロツメクサ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ、オヘビイチゴ、ミドリハコベ、スイバ、カナビキソウ、ムラサキサギゴケ、サギゴケ、ケキツネノボタン、キュウリグサ、ムラサキケマン、ヤエムグラ、スマレ、ツボスマレ、タチツボスマレ、ナガバナタチツボスマレ、シハイスミレ、アメリカスミレサイシン、カキドオシ、キランソウ、ツクバキンモンソウ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、ナズナ、オランダミミナグサ、タネツケバナ、ミチタネツケバナ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ムシクサ、カンサイタンポポ、セイヨウタンポポ、カンサイ×セイヨウタンポポ、ニガナ、アオオニタビラコ、アカオニタビラコ、コウゾリナ、ハルジオン、スズメノヤリ、スズメノテッポウ、スズメノカタビラ、イヌムギ、オニウシノケグサ、アオスゲ、アゼスゲ、アゼナルコ、ヒカゲスゲ、モエギスゲ

## §§「下田原の里山、里山一斉調査」に参加して、2021年4月11日 磯田一雄

入会後初の例会参加。この「里山一斉調査」は、昨年暮亡くなった磯田<sup>あや</sup>恵が一昨年春参加しそこなっている。天気がよくないので多分中止だろうと思っていたら、実施されていたのだ。今回は「吊い合戦」のようなものだが、この上ない上天気。でもこの種の調査に参加したことがないので、どこまでついていけるか最初気になったが、予想よりずっとわかりやすく楽しかった。——飯盛霊園を出ると早速歩道の脇の植生の探求が始まる。手始めにカラスノエンドウとヤエムグラをまず確認した。田原台一丁目の先から山に向かうとスズメノヤリ、スイバ、シナダレスズメガヤ、ホトケノザ。人家を離れるとカタツムリ、コナラ、セイタカアワダチソウ、ベニシダなどが現れ、コバノミツバツツジの華麗なお出迎え。次いでシャガ、マルバトネリコ、アオダモ。養蜂場が出てきて、ウワミズザクラ、ミツバ、ウシミツバ、ミヤマガマズミ、ムベ、シュンランと忙しい。ここでメジロの影とウグイスの声、オオカマキリの卵。ミツバアケビ、ウラジロ、クロモジ、シロダモ、アオモジ、タカノツメ、シシガシラ、ヒサカキ、ヤブツバキ etc.と続いて薬尾寺池に出る。薬尾寺池も堂尾池も以前来たことがあるのだが、ハイキングコース経由だったので、田原台一丁目から薬尾寺池に至るこの山道のことには知らなかった。それだけにここが一番印象深かった。池のほとりでカナヘビとアリジゴクを見せてもらった。アリジゴクは家の床下に穴を掘って棲んでいるものと思ったら、道端の土を掘ってその中から採り出して見せてくれたのだ。少し休んだだけで、引き続き堂尾池まで行く。相変わらず見たことはあっても初めて名を知る草花が色々出てくるが、見落とし書き落とししたものも多かるう。この日私にとって一番の収穫は、シュンランとチゴユリを確認できたこと。おかしかったのは、普段見慣れているはずのヒメオドリコソウを、「これは何ですか」と訊いてしまったこと。場所のせい、咲きはじめてだったからか、普段とは違うように見えてしまったのだ。

名を知るは生を知るなり花の春 磯田

## §§＜感想＞枚方高校生物飼育部 3年 石飛ひなた

生き物を調査しに里山に行くことはありましたが、植物や木に注目したことがあまり無く、名前や種類を教えていただいたのでとても楽しかったです！

珍しい植物や花が咲いている中、ウシガエルのオタマジャクシやミシシッピアカミミガメなどの外来種がいることが目立っていると思いました。

ですが、メダカやカナヘビ、アカガエルのオタマジャクシなども見ることが出来たので在来種を守りたいと思いました。

また、このような活動を知らない人にも知って欲しいと思いました。枚方高校生物飼育部では今後もこのような機会に参加させてもらい、広めていきたいと思います。

◎参加者：磯田一雄、太田 理、桑原秀晃、桑原由芽、田中光彦、山田 晃（他、寝屋川市自然を学ぶ

会 4 名) (以上 10 名、他に保全協会受付 4 名)

《会員交流コーナー》\*\*\*\*\*

§§<教えて>昨日はウォーキングのコースを変更して門真市の南東にある弁天池公園へ行ってみました。寝屋川にたくさんいたヒドリガモは全く見えず、ホシハジロが殆どでした。その中に 1 羽だけ私の見たことのない鳥がいましたが、この鳥は何という鳥ですか? 写真を添付しますのでよろしくをお願いします。(1/20・鈴木永子)

§§<総会について>総会に出席すべく、バイクで出かけましたが、寒さと会場までの道のりに自信がなくなり、引き返してしまいました。ごめんなさい。所が、太田さんからのメールが届き、西畑会長が私を終身会員に推挙されたとのこと、有り難うございました。私自身、この正月、数え 95 才になり、体力、気力、知力も衰えてきて、どれだけお役に立てるか不安ですが、何かあったら、言いつけてください。なんとかして見ます。皆さんもよろしく願いいたします。(1/31・平 研)

§§<平さんからの提案>平さんから下記のようなご提案をいただきました。もし可能ならばお受けしたいと思いますが如何でしょうか、ご意見を伺いたいと思います、皆さまのお気持ちをお聞かせください。よろしく願いいたします。(西畑敬一・2/1)

<平 研さんのメール転送>西畑会長様

今回のきたかわちの総会には失礼しました。済みませんでした。だが、総会で、私を終身会員に推挙して下さいとのこと、身に余ることで、本当に有り難うございました。数え 95 才の身、体力も知力も衰えてきましたが、私で何かお役に立てることがあればと思っています。

一つ、先般作成してお送りしました、交野いきものふれあいセンターの「生き物と触れ合う楽しさ」を使って市大の私市植物園で「ナニシテンネン、なんでやねん」で生きもの観察会を試みたらどうかと思いました。7 月の初めぐらいはどうかと思っていますが? 絶滅危惧種のトンボもいます。

§§<キノコの写真>今年から入会しました磯田ですが、例会には、3 月 27 日は都合付きませんので、4 月 11 日の第 422 回(自主参加例会)「下原田の里山」から参加させていただきたいと存じます。このコースは、薬尾寺池には行ったことがありませんが、飯盛霊園—戎公園—堂尾池—ふれあいの森—室池園地をこれまで二度ほど歩いたことがあります。添付しました写真のキノコは、私が室池園地のかかるがも橋から権現の滝へ下る道で拾ってきたものです。玄関の靴箱の上に飾ってあるのですが、名前が分かりません。900 種以上のキノコが載っている「山溪カラー名鑑・日本のきのこ」で探したのですが、類似のものがみつかりませんでした。お教えいただければ幸いです。なお、この写真は、磯田恵が病室で生前最後に見た植物の写真となりました。以上よろしく願いいたします(磯田一雄・3/31)

§§<キノコの写真回答>コナラの枯れ枝に発生したヒイロタケです。(田中光彦・3/31) ヒイロタケのように思いますが、いずれにしても裏側の写真が必要ですね。(天野史郎・3/31)

§§<教えて>一昨日城北で見つけたスマレと、ヤナギですが種名を教えてください。よろしく願い致します。

ヤナギ 1 yanagi1.jpg (城北ワンド・皆同じと思っていましたが、2 種のような気がします)

・3 個体のうち下 2 個体は同種で雌雄どちらか分かりません。

下 2 個体・枝は無毛・葉は両面無毛で鋸歯は細かい

ヤナギ 2 yanagi2.jpg・柱頭の先は茶色で 2 裂・花序柄には白毛・葉裏は白く主脈上に毛、鋸歯は細かい

紫のすみれ sumire1.jpg (城北公園東)

・花径は約 2,5cm・側弁に毛がある・側弁、下弁の奥は白い・葉の両面無毛・花柄、葉柄無毛・托葉は分かりにくく、膜状?鋸歯はない

白いすみれ sumire2.jpg (守口近所の宅地の溝)

・花径は約 2cm・側弁に毛がある・葉の両面無毛・花柄、葉柄無毛・托葉の鋸歯は深い 2,3 しかない (北川ちえこ・4/2)

§§<飯盛山の歴史教えて>三好長慶の拠った飯盛城跡が今秋までには国史跡指定(遺跡の重要文化財)されるようで、指定後は周辺整備が行われるます。そこで見学ガイドの養成につき、飯盛山ガイドブック作成について歴史記述を考えています。地域文化誌『まんだ』のデータベースを調べて、西畑会長やいろいろな人、また飯盛山座談会などが見受けられます。この他飯盛山の歴史が分かる資料等がありましたら教えてください。(4/6・太田理)

§§<飯盛山にジュウニヒトエが>昨日またナナミノキの観察を兼ねて、飯盛山へ行きましたが、東側の水場—下からは龍尾寺・なわて更生園を経て、権現川の谷間沿いに、楠公寺から飯盛山に登道の途中にある水場—にある、ジュウニヒトエの群落が咲きはじめていました。花は青紫色でした。来週あたりが見ごろになるのでしょうか。私は週一回は飯盛山に行って、下りには必ずこの水場を通ります。下からここまでは割に楽な道です。この水場に水汲みに来る人がかなりいますが、下の車止めまでなら車、さらに少し上の権現の滝への分岐まで、バイクで来て汲んでいく人がいます。(4/13・磯田)

◎異動：(敬称略)

入会：磯田一雄(1/30・四條畷市)

◎編集後記：コロナ禍まだ続いています。昨年度は3~5月の例会が中止になりました。今のところ例会は開催されていますが、この後どうなるか?まず感染症拡大防止ですね。みんなで頑張りましょう。編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。(太田)

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@ken.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000 円 郵便振替 00970-4-103735

目次

2021 年度北河内自然愛好会総会要項(決定事項) 太田 理-----1

第 420 回例会「野草を食べる—山田池公園」枚方市 北川ちえこ-----2

寄稿・お手紙と観察記録 磯田一雄-----4

第 421 回「下田原の里山・里山一斉調査」太田 理-----13

§§「下田原の里山、里山一斉調査」に参加して、磯田一雄-----14

§§<里山一斉調査 感想>石飛ひなた-----14

会員交流コーナー-----15 異動、編集後記-----16

カラグラフィア版---別刷 例会案内-----別刷